

COLUMN—コラム—

～アニマルウェルフェアについて思うこと～

最近、アニマルウェルフェアという言葉をよく聞くようになりました。アニマルウェルフェアは、元々、1960年代にイギリスから広まったもので、EUではいち早くアニマルウェルフェアに基づく飼養管理方法が制定され、EU各国で法令・規則として定めるようになっています。また、国際獣疫事務局（以前のOIE、現在はWOAH：世界の183の国が参加）でもアニマルウェルフェアに配慮した飼養管理指針が策定され、国際基準として世界中の国々で、これに準じた飼養管理指針が制定され始めています。この世界の動きを受け、農林水産省においても今年7月にアニマルウェルフェアに関する飼養管理指針が作成されました。WOAHでは、アニマルウェルフェアを動物の生活や死の状況に関連した動物の身体的および精神的状態と定義しています。この定義を農林水産省では、家畜を快適な環境下で飼養することにより、家畜のストレスや疾病を減らすことが重要であり、結果として、生産性の向上や安全な畜産物の生産にもつながるとして、アニマルウェルフェアの考え方を踏まえた家畜の飼養管理の普及に努めるとして、各畜種毎に飼養管理指針を制定しました。酪農家向けには、「乳用牛の飼養管理に関する技術的な指針」として公表されています。

1970年後半、最初にアニマルウェルフェアが日本に入ってきた当時は「動物福祉」と訳され、その概念が誤って伝えられてしまいました。本来の考え方が十分に伝えられず、「動物愛護」という間違っただけの考えが広まり、誤解を招いて当時の畜産業界には受け入れられなかったようです。アニマルウェルフェアは受け入れられなかったのですが、その後、酪農家にはカウコンフォートが快適性に配慮した飼育方という概念で広まっていきます。カウコンフォートも飼養管理者に求められている内容は、アニマルウェルフェアと同様ですが、現在では世界的にはカウコンフォートではなく、全畜種を含めたアニマルウェルフェアが用語として広く使われています。

日本の酪農業界は、前述の通りカウコンフォートに力を入れて指導してきたこともあり、アニマルウェルフェアに近い形で既に乳牛の飼養を実践しています。アニマルウェルフェアでは、環境や施設の快適性だけでなく、飼料給与や疾病、家畜の行動や最後のと殺までにいたるより広い範囲での管理を謳ったもので、カウコンフォートをさらに進め、より広い範囲の飼養管理の概念となっています。アニマルウェルフェアの実践は、最新の施設や設備を導入することではなく、乳牛の健康を保つために、家畜の快適性に配慮した飼養管理を見直す飼育方で、日常行っている乳牛の観察や記録、丁寧な取り扱い、良質な飼料や水の給与等により、家畜を健康に飼育することとなり、決して難しいものではありません。

しかし、乳用牛の新たな指針では、繋ぎ飼いで飼われている牛は、アニマルウェルフェア上の問題を防止するため、繋がれていない状態で運動が十分にできるようにすることが推奨されています。また、妊娠している牛は、妊娠期間や分娩の兆候を踏まえ、分娩が始まる前の適切な時期に分娩区域（分娩房等）に移動させることも推奨されています。パドックや敷地に余裕がない場合は難しい課題になりますが、将来に向けての飼養管理の改善点として認識していく必要があります。

世界の大手食品メーカーは、アニマルウェルフェアで生産された原料を調達して製品を作る動きが盛んです。日本はまだそこまで大きな動きはありませんが、世界と同様の動きが出てきそうです。また、この先の補助事業の参加要件としてアニマルウェルフェアの指針に準じているかが問われる場面があるかもしれません。GAPやISOの認証を取る場合もアニマルウェルフェアに配慮しているかが問われています。このような流れの中で、熊本の酪農家が他に先駆けていち早くアニマルウェルフェアに取り組むことができれば、らくのうマザーズは、他の乳業メーカーのどこよりも早くアニマルウェルフェアに準じた牛乳・乳製品を消費者に届けることができ、今以上に付加価値が上がることは明白です。

新しくできた飼養管理指針を守らなくても罰則はありませんが、これからの乳牛の飼育方の方向性の参考になり、生産性の改善にも貢献できると思われますので、酪農家の皆さんも是非、ネットで検索して乳用牛の飼養管理指針を見てください。同じページの下段の方にチェックシートもありますので試してください。自分の飼養管理を見直すいいチャンスかもしれません。熊本の酪農が少しでもよくなることを願って筆をおきます。



全国酪農業協同組合連合会（全酪連）
購買生産指導部 酪農生産指導室
技術顧問 久保園 弘

経歴

久保園 弘

全国酪農業協同組合連合会 購買生産指導部

酪農生産指導室 技術顧問

福岡県出身

昭和54年 宮崎大学大学院農学研究所修士課程修了

昭和54年 全国酪農業協同組合連合会入会 関西飼料工場
横浜飼料工場 購買部資材課 自給飼料課を経て、福岡支所勤務

平成8年 熊本県酪農業協同組合連合会（らくのうマザーズ）
出向 自給飼料担当部長として、自給飼料の普及に努める

平成11年 福岡支所に次長として勤務

平成14年 酪農生産指導室長 名古屋支所長 酪農生産指導室技監を経て、平成26年より現職

「農林水産省 アニマルウェルフェア」で検索

http://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/animal_welfare.html

2023農業フェアでの理解醸成活動について

JA熊本中央会主催で去る11月11日、12日に「2023農業フェア」が開催され熊本県酪農青壮年・女性部協議会は搾乳・哺乳体験ブースや理解醸成活動のブースを出展いたしました。搾乳体験は約540名、哺乳体験は約200名の方が体験されました。中には小さい子供さんから高齢者の方がおられ、「すごい!」や「楽しかった!もう一回したい!」といったうれしい声が聞こえてきました。

また、理解醸成活動ブースでは、乳牛のことや酪農家の仕事について、そして牛乳が出荷されるまでの過程の説明を行い、ロングライフ牛乳

やグッズの配布など約2,000名を対象に行いました。ブースを訪れた方からは「牛乳買います!」や「これからも頑張ってください」といった応援の声掛けをいただきました。

今回の理解醸成活動を通して、幅広い年代の消費者の方々に酪農の魅力についてしっかりとお伝えすると同時に酪農に対して、興味を持っていただくことができた実感しました。

今後も多くの消費者の方に一本でも多く牛乳を手にとっていただけるように今回のような理解醸成活動を行っていききたいと思います。



「ながみねこども園」にて酪農ふれあい体験交流事業実施!!

主催：熊本県酪農青壮年部協議会

熊本県酪農青壮年部協議会役員により、搾乳牛と仔牛を連れて幼稚園・保育園へ出向き、搾乳や哺乳の体験を通じて、乳牛や酪農を身近に感じてもらう「酪農ふれあい体験交流事業」が、11月1日(水)に熊本市東区にある「ながみねこども園」で開催されました。「ながみねこども園」は【未来を担う子どもの心と身体の育ちを支え、保護者や地域から信頼されるこども園となる】ことを理念として掲げられており、実際に食育にも力を入れていました。

当日は天候に恵まれ、約65名の園児たちが搾乳・哺乳体験を行いました。初めに、中村委員長より注意事項を交えた挨拶や副園長、園児より歓迎の挨拶があった後に搾乳体験、哺乳体験が始まりました。日頃から牛と接する機会が少ない園児

たちは最初は緊張している様子でしたが、触れ合う時間が増えていくにつれ、「かわいい」といった声もあがり、笑顔で楽しそうに体験をされていました。また、年少以下の園児たちもお兄さん姉さんの体験を見学し、楽しまれた様子で、あとには先生方も体験され、酪農に対して理解を深めていただけたことと思います。

今回の事業を通して、酪農情勢が厳しい現状、理解醸成活動の重要性を改めて実感すると同時に今後も、より一層牛乳の消費拡大へ繋げていけるような理解醸成活動を行っていきたいと思いました。



中村委員長



～竜北東小学校での理解醸成活動について～

令和5年11月21日（火）、(有)T・Mファーム（JA八代）にて森本真由氏を講師に竜北東小学校の4年生が参加した理解醸成活動が行われました。今回の活動では、餌づくり、餌やり体験、哺乳体験が行われました。初めて間近で乳牛を見る子どもたちがほとんどだったことから、餌やり体験では、最初は牛の迫力に驚き、怖がりながら餌やりをしていましたが、徐々に距離も近づいていき、最後には直接手渡しで行えるような子もいました。哺乳体験では子牛の可愛さから哺乳後も離れられず、ずっとブラッシングをしてくれる子も多くいました。その後、学校で利用するため、牧場の堆肥を自分たちで袋詰めし、トラックに積んで

学校へ持ち帰り、最後に酪農と他の農業の密接な関係性について話をして活動は終了しました。

竜北東小学校では来年の2月に今回の体験を発表し、持ち帰った堆肥の一部を販売するそうです。どの活動にも積極的に参加する子供たち、また先生方の熱意に感心しました。今後も酪農が盛んな熊本の理解醸成活動と同時においしい牛乳を子供たちに届けられるように、らくのうマザーズも一緒になって頑張っ



森本真由氏



ミルク牧場だより

2023 チーズ祭り&秋のありがとフェスタ開催しました★

11月11日の「チーズの日」にちなんで、11月3・4・5日にチーズ祭りを開催し、チーズの重さ当てなどチーズに関するクイズ、焼きチーズケーキづくり体験、また、清水職人によるチーズの実演会を行いました。実演会ではモッツアレラチーズとストリングチーズ（さけるタイプ）の実演を行い、普段間近で見ることの出来ない工程に、お客様から『おお〜』と言う歓声が上がり、特にチーズに対して興味を持たれた方からはたくさんの質問が飛び、学びにも繋がる事が出来ました。

また11月25・26日に開催した「秋のありがとフェスタ」では、日頃のご愛顧に感謝して、らくのうマザーズよりパック牛乳などの無料配布、牧場大抽選会、レストランのシェフによるチーズの

実演で作ったチーズを活かした限定メニューの販売や牧場の畑で育ったサツマイモの焼き芋の販売を行い、お客様から「イベントなどがあり楽しく、限定メニューなど美味しい」とお声がけいただき好評でした。

イベント開催時は天候にも恵まれ、「チーズ祭り」では約7,500名、「秋のありがとフェスタ」では約2,700名様のお客様にご来場いただきました。

これからも、たくさんの方々に酪農の理解に繋がる様な環境づくり、また笑顔あふれるイベントなど、スタッフのスキルアップにも繋がる様行っていきたいと考えています。

